

深谷市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画 概要版 平成29年3月

深谷市は、熊谷市及び寄居町の2市1町とともに大里広域市町村圏組合を形成し、広域でごみの処理を行っています。ごみの処理で特に重要なごみの減量や資源化を推進することとし、地球環境を保全することを目的に「深谷市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」を策定しました。

1

計画目標年度の設定

計画期間は計画策定時より10年間とし、平成29年度を初年度、平成38年度を目標年度とします。また、中間目標年度を5年後の平成33年度とします。

2

基本方針

基本方針Ⅰ：3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進

優先的に2R（リデュース（廃棄物の発生抑制）、リユース（再使用））に取り組み、その次にリサイクル（再生利用）に取り組むことで、市民、事業者が参加しやすい循環型社会の形成を目指します。リサイクルにおいては、回収できる資源化量の更なる拡大と、より高品質なリサイクルを目指します。

基本方針Ⅱ：循環型社会づくりに向けた協働の推進

循環型社会づくりのため、市民・事業者・行政のそれぞれがごみや環境に配慮した生活や事業活動を営むとともに、3者が協働してごみの減量、資源の有効活用、適正処理を進めます。

基本方針Ⅲ：適正処理の推進

ごみの収集運搬、中間処理、最終処分にあたっては、発生する環境負荷をできる限り軽減するとともに、ごみ処理に関する市民サービスを充実し、組合や構成市町と連携しながら自然環境や生活環境に安心・安全なごみ処理を推進します。



3 ごみ減量化・資源化の方策

さらなるごみの減量化・資源化を推進するために以下のような施策を実施します。

基本方針

基本方針に基づく主な施策

I : 3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進

- (1) 市民団体への支援
- (2) 適正排出しやすい環境づくり
- (3) 家庭ごみの有料化の検討
- (4) マイバッグの活用とレジ袋の削減
- (5) 生ごみの水切り、食品ロスの削減
- (6) リターナブル容器の活用
- (7) 長期使用の推進
- (8) 多量排出事業者等への指導
- (9) 食品リサイクル法に基づく肥料化・飼料化の推進
- (10) ごみの排出抑制・資源化の推進
- (11) コンポスト容器購入費補助制度の検討

II : 循環型社会づくりに向けた協働の推進

- (1) 情報提供と普及啓発
- (2) ごみ分別への協力体制の構築
- (3) 食育の推進
- (4) 環境に配慮した生活や事業活動の促進
- (5) 温暖化防止の推進

III : 適正処理の推進

- (1) 適正な処理・処分の実施
- (2) 許可業者の指導・育成
- (3) 不法投棄対策
- (4) 適正処理困難物対策
- (5) 災害時などにおけるごみ処理体制の整備
- (6) 在宅医療廃棄物対策
- (7) 広域化の推進



4 発生抑制の目標

目標値（1人1日当たりの資源物を除く家庭系ごみ）を以下のとおりとします。

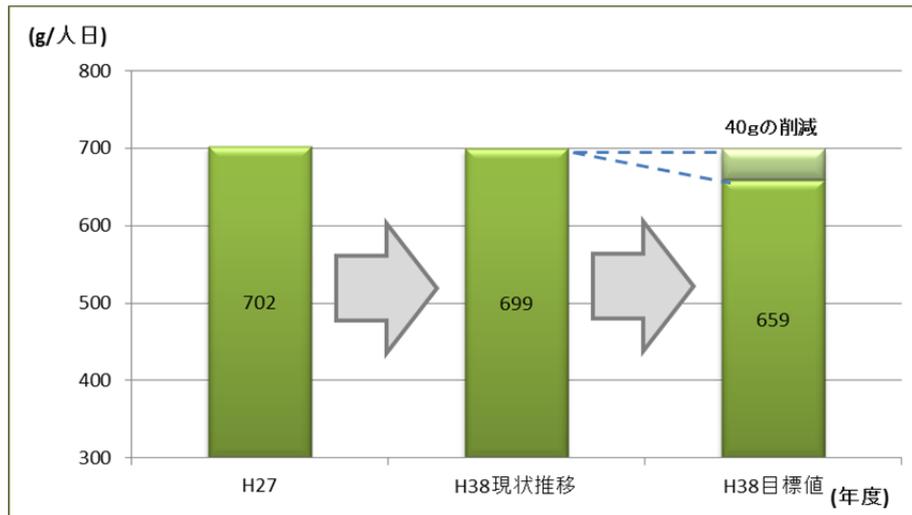
702g/人・日(平成 27 年度) ⇒ 659g/人・日(平成 38 年度)
・・・平成 25 年度の約 7%削減



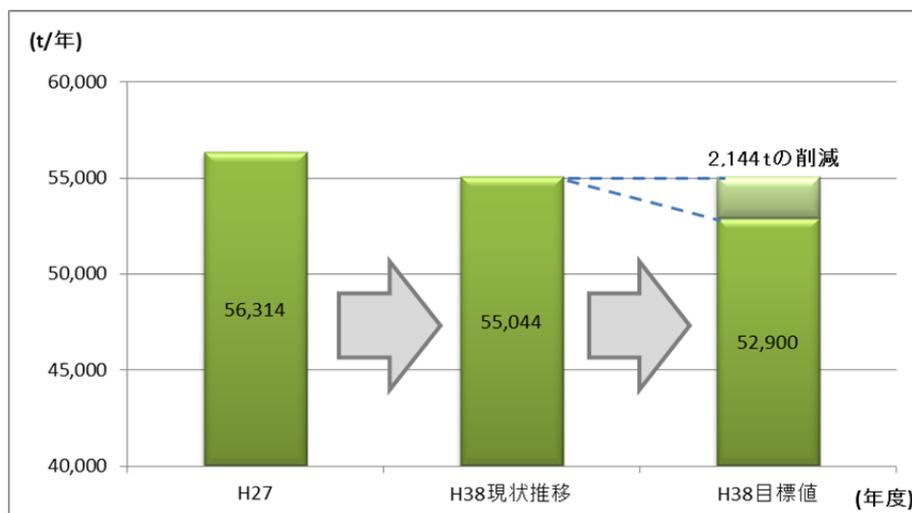
5 目標値を達成した場合のごみ排出量の予測値

現状のままで推移しても、ある程度のごみ減量化は進むと考えられますが、資源循環型社会を目指すためには、さらなる減量化が必要となります。ごみ減量化・資源化の施策を実施することにより、現状で推移した場合と比較してごみ排出量を削減することができます。

1) 1人1日当たりのごみ削減量



2) 総排出量の削減量



●紙類の資源化

紙類は燃やせるごみの32.6%を占めており、1人1日当たりに換算すると212gとなります。このうち約7%に当たる15gを削減する必要があります。これは新聞紙に換算すると約1枚分となります。

●新聞紙一枚の重さ

軽量新聞用紙の重さ：46.2g/m²

新聞紙一枚の大きさ：545mm×820mm（JIS規格）=0.45 m²

したがって新聞紙一枚の重さは

$$46.2\text{g}/\text{m}^2 \times 0.45\text{ m}^2 \div 20.79\text{g}$$

**●食べ残し等の削減**

食べ残しや過剰廃棄等の発生によるちゅう芥類（生ごみ）は燃やせるごみの34.2%を占めており、1人1日当たりに換算すると223gとなります。このうち約5%に当たる10gを削減する必要があります。これはごはんに換算するとお茶碗1杯のおよそ15分の1となります（お茶碗1杯はおよそ150g）。また、生ごみを堆肥化させるコンポストの活用も有効です。

**●水切りの強化**

水分は燃やせるごみの半分近くを占めています。水切りなどで10gを削減する必要があります。これはペットボトルのキャップに換算すると約2杯分となります（ペットボトルのキャップの容量およそ5mL（5g））。

**●レジ袋の削減**

レジ袋を含むプラスチックは燃やせるごみの13.3%を占めており、1人1日当たりに換算すると87gとなります。このうち約6%に当たる5gを削減する必要があります。これはレジ袋に換算すると約2分の1枚となります（レジ袋（LL版）は1枚およそ10g）。

